

規則 143 条(TR5)改定にかかわる WA の報道発表

世界中の多くの競技者が国内選手権、国際招待競技会、その他の記録挑戦競技会に戻り始めている今、WA は本日、最近改定された TR5 における競技用シューズの扱いについて、エリア陸連及び各国陸連にリマインダーを送付しました。

改定されたルールは、800m 以上のトラック種目(障害物競走を含む)で使用されるすべてのシューズの靴底の厚さの上限を 25mm にするというもので、リマインダーが発信された 2020 年 7 月 28 日に発効となりました。

本ルールはロードランニングシューズのトラックでの着用を妨げるものではありませんが、25mm の制限により、トラック種目では 30mm や 40mm のロードランニングシューズは使用できません。

旧ルールから改定されたルールへの移行期間であるため、現在 WA に報告されデータベースにあるすべての競技会リザルトが処理されランキングに列挙されますが、レースでルールに合致しないシューズを履いた個々の競技者のリザルトは、「Uncertified(非公認)」「(TR5.5)」とマークされます。

国内選手権およびその他の国内競技会の場合、記録統計(ランキングや参加標準記録)のためにリザルトが WA によって有効化され認められるためには、競技会は WA の競技規則に完全に準拠して開催されなければなりません。

つまり、競技会リザルトが有効であるとして WA に認められるためには、TR5(規則第 5 条)が完全に適用されなければならないことを意味します。

各国記録(ナショナルレコード)と記録統計の高潔性を維持するために、すべての競技者、競技役員、競技会主催者に、規則第 5 条の完全なる適用を認識させる責任は各国陸連にあります。

各国陸連または競技会主催者が、もしルールに合致しないシューズで競技者が競技することを許可した場合、競技会での当該競技者の個々の結果は、「Uncertified(非公認)」「(TR5.5)」つまり無効として、WA の記録と統計にマークされます。場合によっては、これはレース全体に当てはまる場合があります(日本陸連注:後に事実が判明し、誰が厚底を履いていたかわからないような場合が該当と想定される。その場合、全員の記録が無効となる)。

なお 7 月 28 日より前の競技会でのリザルトについて、競技者が改定された現在のトラックでの靴底の上限を超えたシューズ履いていた場合、改定前のルールに準拠したシューズでリザルトが達成された場合に限り有効です。たとえば、競技者が 2020 年 1 月 31 日から 2020 年 7 月 28 日の規則変更の通知および公開までの間に、靴底 40 mm のスパイクなしのシューズを履いた場合、または靴底 30 mm のスパイクシューズを着用した場合、競技リザルトは有効です。

規則に合致しているかの確認のため製造業者によって WA に提出され、承認されたシューズのリストは、競技者、各国陸連、競技役員、および競技会主催者の助けとなるよう、近日中に WA ウェブサイトに公開されます。

以上